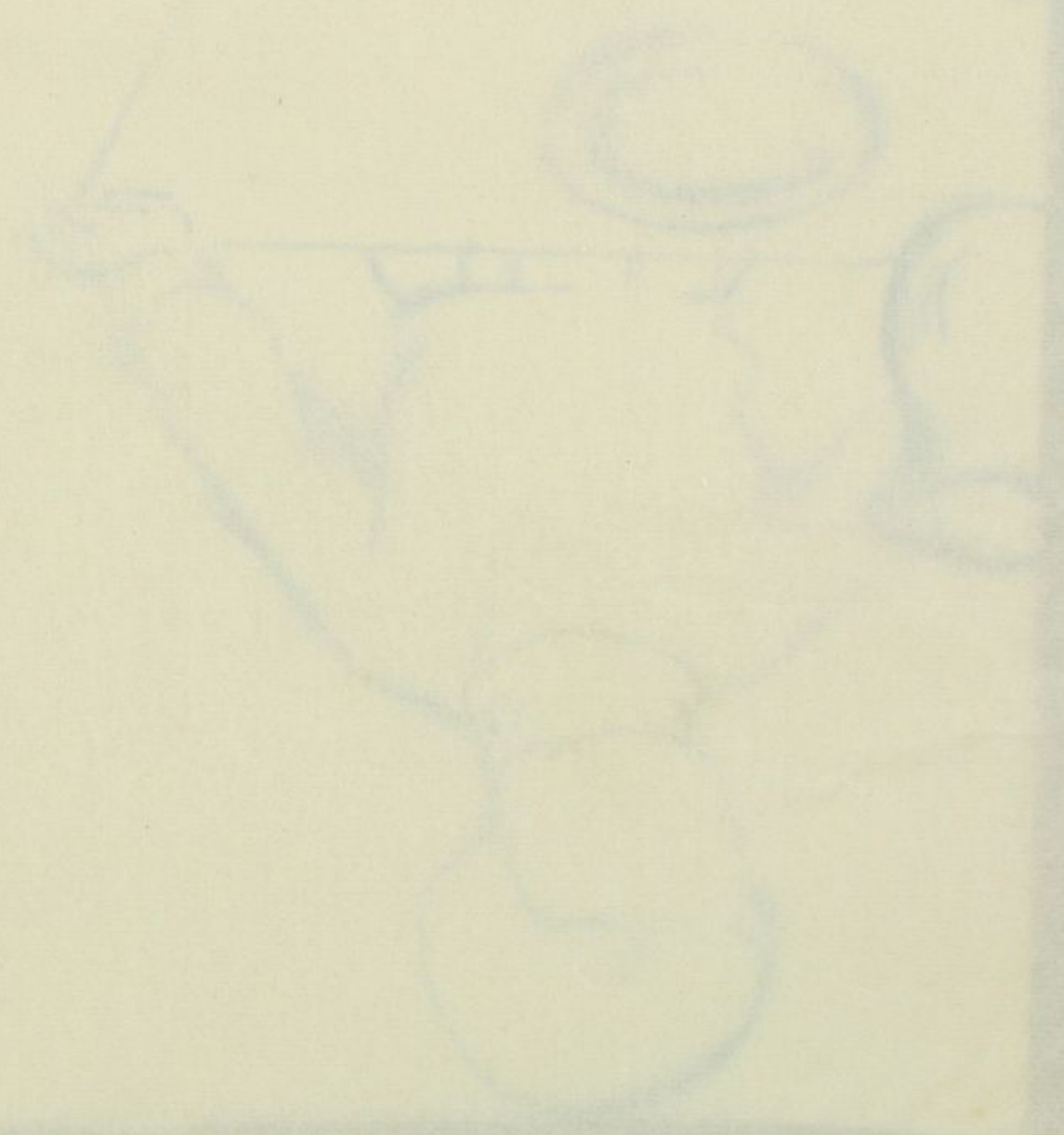


中村俊定文庫  
文庫 18  
170



鳥糸欄



無

又と月9日 樹一 樹二 樹三 樹四 樹五 樹六 樹七 樹八 樹九 樹十

しきり



こと世位なきし月影の所長や 啓崎乃  
 有と雲菴もはらる事ありて けしこち 籠具  
 并樹をうけよの小かへさうにのをこ 杉川む  
 うむよかるといふ人何る 橋場さう 杉川へう ぬ  
 ちかつとやいさきとせわさる 橋場海苔  
 ちかつとやいさきとせわさる 橋場海苔  
 もせはあわぬやまろ 奥羽一足 杉川へう 杉川へ  
 まらこのあつとあつと 杉川へう 杉川へ  
 二日何者さうや 草の枕むさうと 杉川へう 杉川へ  
 ちかつとやいさきとせわさる 橋場海苔

山果を掛くしとをさかす花揺花

おくり乃人くくも之のさかすいさかほろく  
りとも道をゆくくくくく四并花揺花  
くさくさく妖艶眼く供く溪を水人  
就てら此と火を参の句も思ひ出さく

右平乃時り給そ翅りしけ

ろねねの糟壁まささるあけの目ゆき砂岡  
我尚亭ははく鳥山の深おさかみらの  
く乃んさくくく約して神をり二二日さく  
さくはらと今もよのり七月おはくさく新請家尚

深おさかくくくさぬま甲あまあいつ推尾菜脚  
のよれ瑤樹山よくなら水新洞くそふ務素  
あま桓武天皇勅所最仙上人草剣のく  
本さく望月太直長者持佛菜脚瑤璃光か来  
歴くきさ其地なわろくくくく回くくくく波  
くのゆる男袂乃其社絶頂のあゆ小社あま  
まのいさをかちく石のさ蒼洞山骨真巧くわ  
遠坂曲折くくくく木を白峰く綿のこと  
く斐然もつとも考なくくくの観るもく奇な  
是も形状を糸のくくくくくく松を蓋乃





別 研 行 記

四休せぬ世乃流に昔也 海 水 鏡 澤 水

かんちんり淵のいづる湖水奔流しつゝわ

展轉大石のぬきまゝのり又平石をえて雷

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

石あまのり石併せまきこのまゝを敷しぬ

ゆきまのいさるをひきて大杖杖掃る事思餘心

を乞 <sup>訂</sup>板 <sup>訂</sup>板 念佛を七流す一すゝゝと終るも

まこのまゝの流月を宿し、久れ

十六日中禪寺より馬返一村より抜るすかん

不動坂をゆりゆく萃巖の流はらゝる方似とら

よあて森監躍舞せたる事知えられ絶勝事

ろ新よめ <sup>海</sup> 中宮神社ゝろゝ男陣一の山道

ありあゝ三甲まらわたり湖水磨るゝ乃垢毛

洗ひへし流は舟四之艘あり六月朔日より

溪禪定とそ糸信の人くこの舟をく跡地

名寺をめぐらふよゝのこゆぬ

山印木そも禪定乃舟よる

梅もやゆき々々流の 男好と 言我

汐ならぬ純子流口やあゝあしし 北

御祭禮行列 十七日辰刻

年鉦

百人

獅子

貳太鼓笛  
廿三

乙女

八人

弥魚

四人

神馬

三疋

鉄炮

百人

弓

同

長柄

同

火威鎧

同

人ノ猿

三十人小兒面ヲカケ

猿引

二十人 去猿

御太刀

一人 馬上

御宝物

一人 日

捧

百人

帯衣着

二十人

乙女

八人

神樂男

十人

花子

十二人 十二支ノ容ヲ  
頭ニ造ル

サイノ鉦

十一本 清紋巴九曜  
輪宝色々



軍配團

四本 赤色  
金傳紋 中

鷹居

二十人

樂人

同 鳴樂三

金幣

例幣ト云

御奉行二人 束帯

東照大権現神輿

金幣

太

日光権現神輿

金幣

山王権現神輿

金幣

太

山伏

十人

平山伏

三十人

武士 麻上下  
髪斗目

數百人

御門主御名代候公方衆徒武士以下等  
 おこの節の節事にもや都郡の人物のさしつかれ  
 道もさるあつたつて了了矢立御座をのりし者との  
 およそくをなはん(兄)おらちむもてあまらまはの  
 ちりしつるもむむらに口おしつてなると  
 くとあつたのあまらむらむら

十八日うつらさるゆつ二位勲一等日光山大  
明神と顔あり宮殿をきり

録くつこ町うつらり一ま居

あつれり愛我くくまきまのむのまき再令  
いつそのことをりく河まき

よあ姑やせし生ひ我よくひりけ 北

せめく松山まきひよまついあむいあし世の  
あまあまきくゆ

又来り松山まき故やあんせく一れ

くああまわ坊まありくゆくく雪霧くろく暑威

をげくま雷声近く電光地まくつあまの物く

鳥山群斗のままうく澤中か母のまふまのせ

あまくくまふあくく日ハ泉溪寺まゆき又お

まらまう人くくむくく七八日まをまふむ

サ古百あまをくく澤水ま松岩ま満まゆま母を

いんむ甲杜やちも送アまら戸なわ馬まをまふ

地地 船乃ゆくく戸もあま 母ゆま 北

抽神金石ま清見原帝の石碑をまふ

吉野あつてあまを清難ま船の照り

黒羽源田氏のみまあま

惣社八幡宮を那須と申之所の的を射る時  
新念結霊神をわき井拍り輪橋踏籠  
いさよつとらまよわん條系一里斗り玉原の  
の四後編を結社杖をらまよ結玉多人を  
お原よ志結籠子結を袖の向をまむいむ  
誠思ひく又書はく

多しやうとを川原のわきま

結玉のなを乃結玉なるうら北

犬追拍の伝あるまはる甲入るを大射の  
る世のお 伊王野(ゆきてふ)福寺(ふく)閑居

まのまの山の庭の水あう乃のそ花楼栗の他  
まのまの山女をなをらまよあ

藤花の陰よそらまよの結のあ小

廿九日サ戸野よまを振るるまよくまを拍  
みらの乃拍あまよまを振るる花法が伝の松  
あり緑いままよ馬加まよ那はまよをゆ  
まをまよま野を拍あまよまよまよまよ  
かまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
谷焦乃餘烟まよまよまよまよまよまよまよ





今を不<sup>可</sup>得<sup>り</sup>の<sup>り</sup>下<sup>り</sup>なる<sup>り</sup>背<sup>面</sup>の<sup>り</sup>く<sup>り</sup>  
の<sup>り</sup>か<sup>り</sup>

叱<sup>り</sup>お<sup>り</sup>お<sup>り</sup>麻<sup>子</sup>の<sup>り</sup>せ<sup>り</sup>よ<sup>り</sup>不<sup>可</sup>得<sup>り</sup>面<sup>北</sup>

北<sup>上</sup>の<sup>り</sup>不<sup>可</sup>得<sup>り</sup>の<sup>り</sup>約<sup>り</sup>と<sup>り</sup>北<sup>上</sup>の<sup>り</sup>上<sup>り</sup>の<sup>り</sup>西<sup>上</sup>の<sup>り</sup>甲<sup>子</sup>は<sup>り</sup>  
精<sup>理</sup>村<sup>醫</sup>王<sup>幸</sup>子<sup>い</sup>の<sup>り</sup>佐<sup>敷</sup>次<sup>信</sup>忠<sup>信</sup>石<sup>塔</sup>を  
義<sup>經</sup>乃<sup>及</sup>弁<sup>本</sup>の<sup>り</sup>大<sup>股</sup>若<sup>純</sup>一<sup>を</sup>庄<sup>司</sup>の<sup>り</sup>  
棺<sup>上</sup>の<sup>り</sup>鉄<sup>筋</sup>之<sup>り</sup>根<sup>石</sup>開<sup>帳</sup>て<sup>り</sup>お<sup>り</sup>ぬ  
り<sup>名</sup>將<sup>乃</sup>汗<sup>じ</sup>の<sup>り</sup>ハ<sup>ー</sup>及<sup>の</sup>結<sup>小</sup>  
さ<sup>方</sup>極<sup>ち</sup>せ<sup>り</sup>か<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>よ<sup>き</sup>洞<sup>の</sup>札<sup>小</sup>

級<sup>坂</sup>村<sup>の</sup>温<sup>湯</sup>あり<sup>す</sup>ふ<sup>通</sup>り<sup>所</sup>を<sup>り</sup>西<sup>上</sup>

か<sup>の</sup>り<sup>の</sup>三<sup>庄</sup>司<sup>の</sup>館<sup>の</sup>門<sup>礎</sup>わ<sup>つ</sup>の<sup>り</sup>  
級<sup>坂</sup>二十<sup>町</sup>斗<sup>を</sup>わ<sup>て</sup>山<sup>原</sup>は<sup>り</sup>橋<sup>わ</sup>を<sup>り</sup>  
今<sup>の</sup>を<sup>り</sup>昔<sup>の</sup>松<sup>原</sup>な<sup>り</sup>より<sup>り</sup>の<sup>り</sup>  
あ<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>流<sup>き</sup>つ<sup>て</sup>紫<sup>折</sup>  
へ<sup>出</sup>る<sup>茶</sup>屋<sup>は</sup>博<sup>の</sup>け<sup>食</sup>や<sup>あ</sup>る<sup>り</sup>麦<sup>本</sup>  
ア<sup>カ</sup>ヤ<sup>の</sup>味<sup>あ</sup>も<sup>り</sup>  
あ<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>馬<sup>耳</sup>と<sup>り</sup>の<sup>り</sup>  
ろ<sup>き</sup>を<sup>り</sup>佐<sup>敷</sup>氏<sup>の</sup>と<sup>り</sup>の<sup>り</sup>  
あ<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>二<sup>葉</sup>を<sup>り</sup>お<sup>り</sup>  
ゆ<sup>く</sup>は<sup>り</sup>の<sup>り</sup>お<sup>り</sup>ぬ<sup>り</sup>

佐苗如琢と云ふぬ性漢高情此人所あり  
詩を<sup>て</sup>禪を<sup>て</sup>近き<sup>を</sup>ある<sup>を</sup>印<sup>す</sup>  
う<sup>は</sup>鹿<sup>の</sup>つ<sup>ま</sup>う<sup>ち</sup>の<sup>葉</sup>脚<sup>取</sup>の<sup>け</sup>  
松<sup>の</sup>枝<sup>の</sup>色<sup>中</sup>の<sup>連</sup>理<sup>の</sup>指<sup>を</sup>の<sup>ハ</sup>其<sup>若</sup>竜  
美<sup>髯</sup>の<sup>片</sup>ま<sup>の</sup>時<sup>と</sup>去<sup>双</sup>枝<sup>名</sup>木<sup>在</sup>わ

松の根のやうと義行園のな

絶句贈答の進とこも〜川をさよわ伊集  
の大木に丸た平山左の弁女数枝田を下紐乃  
園<sup>と</sup>貝田所<sup>は</sup>入口仙<sup>意</sup>境石<sup>大</sup>佛<sup>を</sup>

こころ越王堂佐苗兒才の毒世木像あり

白石の城下を去ふては道斗左へ深谷  
村高善寺水音法師をくらひ一葉のさる

この湯の心の中は小橋や苔法師あり北

灯下の法話かほゆるとある庭石物さむい

秋の<sup>さ</sup>き<sup>や</sup>ま<sup>さ</sup>あ<sup>ら</sup>ひ<sup>を</sup>鶴<sup>牛</sup>

秋を引く送りて去り〜丸

麦秋や八月日癖を帯くはる水音

岩沼のやぶの末のまさをくまひと〜

武隈の松を吹く〜ゆきののね

友の變也更しくけり中めの松花月

あぐの白の雪吹く八公甲余るあしりりり  
申えかお道祖神の社にぬるついで  
いそげとよみしりや

神んあきこく甲植乃のままや北

實方のおり十町斗ゆ手境手村麻たらのそ  
る姓お敷石用あわ苔壁帳糸の(三)地(雷)ききさる  
信せん小祠麻屋て雨な水はむしり

ぬらふくくおほくやま田は友まゆめ

増田くまくと出る一里余中由長町をまて

仙舟

時をせし仙舟乃くから川

三浦拵まのあをきつぬおのり他り  
て西府町まのあけの目拵さくく保く

秋迦堂を神つる岡木北下葉師をかき  
あ秋をわ玉田操をたまる増の青羽  
ゆくのうさきく鬼の岡の社をわを思ひ大名小路  
そこそあぬる二三日のまゆま中七八葉  
十三日あ町をさくさく送る指杏林新ゆらん  
する事よき若しり名新をおも



飯をせんとし居しとらぬはし一居北

たぐの細きこころわの十符乃若二株を丸  
つねをばり

キレをよ〜たよはな〜つ凡若の音

道のよわ元は松山地まよわ川〜市川村  
中よわ南〜西五町乃の盡はり〜ぬ〜  
東人乃路は昔を思ひぬまき尾をほろわ際お  
れよの小碛をと懐〜

萬もやめまはる牛の角はなみ〜か小

野田玉川小橋よあつのは路平をとめてぬる石

そは繁山の下をま〜人し〜よいぬむ〜くは橋のわ

末乃松山(山)曹洞宗の若菜若新後の山なるお

末松寺とよお仲乃井松の圃ををた〜んて

壇のま新木氏くも〜やとら(壇)

六社明神は諸古宮表石壇(壇)は路掛(山)を

崖をり泉ノ三郎寄進は路灯籠あり又路

は壇や高尾四つあわろはの〜地(山)を能せ

あとのお今ハ壇使らふやまな〜この電は

あるを〜つ度〜ゆま〜し右代はあ〜抄はく

改る由〜よ方古不易の水〜水〜

塔のまを風揚り名の外風不狂

葉のひろくはちやといん子なほ月小

和堂へかろしわこる子なるあといしとろ乃  
教し忘れ大いふしならひゆえを何ぬ  
東に五大堂中わ瑞山名乃精舎よつき草  
たろふきわ西の天主の茶屋細道よつきて  
是ちん雄岩揚あわ塔何也碑あまこ洞  
中よあり天下乃壯觀言説を絶まら子

陰海之東月出遙 風僧禿士到年平久

一乃樹青松千萬月 曉合俾換幾雲煙潭北

あは二日とほめしるふらんわー又と島あを  
て浦くは眺望のまわぬ

そまよわさる本塔頂をたふあー大松は煙  
地ありさ跡あやー三本木古河よとらる  
あをけりしとま野一の園よとほわけしめて  
よよ水へりさ鐘の何せ義經の影中松山  
子中よ何も田中よ泉井のえろー乃松毎茶の堂  
梅ま衣川あふあのみさ立付生れゆをとらむ

東にまぬね一木ありて、新茂廿北  
 諸横臥らんをみず、皇女を祀らば、光堂  
 東むき、秀衡三代の石の棺を納む。七宝莊嚴  
 乃ちを控ぬる、りる、物色く、ある、まゝ、い、ま  
 所、ほ、ま、理、堂、白、山、宮、始、拈、一、木、十、圍、ま、の  
 又、大、き、牛、を、こ、の、に、園、際、寺、七、加、祥、寺、泉、の  
 所、こ、に、理、院、西、の、わ、り、の、楳、月、山、に、四、奉、衛、の  
 鐘、の、何、れ、の、金、鐘、山、乃、林、下、に、託、こ、り、り

英雄乃茲拈のこせ夕子苗  
 達谷の窟へあま二里余西光寺といへり住僧

かめろ云平城天皇のころ、悪を逐王赤頭、左馬  
 高丸三人の女、賊勅命をこむく、田村丸おきを  
 征伐せむ、窟、ひ、ま、二十間、奥、四十間、余、を  
 ち、お、ろ、う、の、棧、造、り、の、一、堂、を、建、つ、慈、覺、大、師  
 石ハ、跡、乃、昆、婆、門、跡、像、乃、安置、夫、山、石、上、り、  
 源、義、家、其、の、古、を、以、つ、大、日、如、來、の、一、像、方、五  
 間、の、あ、ま、る、容、貌、奇、偉、と、こ、む、り、ふ、り、蒲、池  
 天、女、祠、上、を、る、弟、山、禪、定、を、わ、く、こ、う、屋、や、ま、に、し  
 拈の菜よあらはのむ

鳥の子を魔佛一如の扉の肌

風乃舒けしとて夏花の白ひが 北  
南部道にやみ承て果れ園へは出羽へくす  
たやれ嶺程さくふやれ承かこりませきた  
なり小黒崎美豆の小ををんたこー一乃園  
よる又右河をさつて久一輕井澤通とふ  
これよき行程二十里中ゆく番所あり名乃  
ありしち水けりこ色るう新一沢たらくこ水石  
邊異さるのうらうありー

結露く似せぬやおく結露の木曾  
高松子乃茶神のこそ車申り 北

上の畑より寺所へ片く雨をきこゆとてさ乃利  
能向屋細谷久たつといふもさよや去むこの人六十  
六部乃斗鼓の毛をさあへ創事をぬせむといふ  
病上癪といや一や片一も男あはる成ふこさよ  
一巻ハセむとあめしむ者れはらこましと途をきこ  
やをわほまらぬ馬二足をやつけて延込を送  
られ又縁にあつて一袋のたこき

雨五月をこれく六部の報謝者  
菅人言乃出羽へ送るり子苗雨小  
尾花沢餘木清風といふものも猿形をさる

ふかきうてわまるとりひくわあまひふて尋  
今此御階をやめ又江戸より紙一封しある人此の  
あしはとむるふる遊事ありしをゆるゆるとあ  
はるを盡ししに之し宣ふ墨を指しふるを  
馬もあはくそゆんふ合羽舞きり上よりく  
し諸はふさまる牧の勢を耳をこし雷乃  
あそく飯屋はあし狂ふしきあるきする筆は  
きて上はゆいさかきすまうしあつたまを祢しを  
蚕のさしと食つく蚕風蚊蝇ノ鼠賊僧と  
あ作ありし栢子度ぬるを思ひ人をくたの

しとあはくわあけのりしをわやくあくも  
かき川をたふして舟形形をわする枯木板子  
この中し新庄と庄内へお進みなり茅店に繻の  
あ法ありし舟あはし新庄へは秋田といふや  
あしよあはくしる修り共る座頭二人あ  
林へてあはくまお思ふ御階よりわはしは秋田へ  
いりよありしとを鏡練をまおおしく練は  
あはくしるしとたのしき小山のこころも  
ひやろちあはくしる舟より新庄舞香くしとあは  
あはくしる及位より院内にあらまおはくしる新あはくし

里余盤山巖峭嶮とありのく路をえりて  
曲屋の滑石をくくするありのりる相根りま  
此地とくくしりてゆくは小野村とま  
小町の井取や田の中は紫折うといは芍薬  
数株あり荊州府に昭君村とや今もこの  
ころのころありけりてありしあり

花の色ハ菩薩に面乃元る時

厨川 古城跡 夜のそそありし

風流乃糸のくくしりてなつては

この川に流るるく握五郎景政の手眼

此多疵をあるいまたこの川にわたり一眼なり

土用干推きぬを何くぬかてきふ小

とくに大なるは神宮寺貞任の城跡あり川あり

まはりて新橋をまはる榎はくく町をこ

秋田久保田とくく町といはれ

岡岡を流く安堵一小野に流るなり

西南の貨財貿易は通一國をくくし

民を守りて古き要津のくくしや古橋あり

押す餘香とくくしりてあり

被よるはくくしりて眉根やうつらこ

小

浮見丈昔(五)わ旧戲跡人なりし山山句當吐糸  
又をよせて其跡可極申すさう後(七)のやちを  
ういふはあまもくしういふまゝ(七)なり  
またちや其粟丈人役内子入湯末均りひて  
會(七)はしりあり三十日おぼゆる説布二十二  
と云あるわちあらし山脚別墅矢橋漆人物  
和泉の細涼河さや

舟りるる木羽ゆくすまひのち  
奔走を公のそとをほりもあはれ子ら十余(七)の  
白く連りたる遊子(七)の集り入るこころ(七)もあは

二十七日川口をとおれく送る 壯子河をあま  
又あま遊(七)おま(七)のち(七)のち(七)  
おはつた石垣わのハ一隊舟のるに水のけ  
らま(七)のち(七)のち(七)

はくがけせむ草の末の流まて  
ひまらふもむむおま 汗裁 小

鬼田七里城下遊野倚重きをうらの方石亭  
よ三四日(七)のち(七)のち(七)のち(七)あり  
七月二日(七)のち(七)のち(七)のち(七)をゆへ  
風あま(七)のち(七)のち(七)のち(七)鳥延野戸(七)のち(七)

塩濱のさほしむるの神跡いつまなふもいふ  
あそびのえんこころ

塩濱平のくして小庭さあぐら

朝や海も馬のぬきをこし

きよと柳のまをささるやふ小舟

風や秋よ沙乃峰よねを吹小

本庄郭をむく屋敷なると市色まじし

平澤斎菴市を清くそ屋休らんつけり

こし金又たあつた津濱の村田金浦をこて

たふこしこし足をとやふむ

四月金氏隠居仁助あけくまき人せとかなむく

蚌満寺祖敬和尚の湯火神掛地蔵言書よ

日守氏小舟こそくそくそくそく棹をたぐく

魚水浮よけいんくをたぐくそくそく九十九

一幅の山水をひきま断續の痕跡まじりぬ

手あて子の刻細くけりて繪松竹の幕

をけり行厨をひきまきりてなをる海山ハ

南よけ湖面を容つてゆか温風酒をまひ

波文綾のくもくも芭蕉公羽一尺乃とさ

ふたりのこけ雨也西施のぬめのをとり



一花の字をよめりて韻を以て

溪澗水漲沙、象浮出横斜。

樹似含秋氣、感情二月花。

山林くや世を擲る者能く

岩ハ一瓶のを形を以て

洞にありて殊乃余を甘味寺

多能深や林能呼吸の境ありて水

田子浮聖廟

娘貝もをしとめり繁能けりて

能周山ありて能く寺ありて西行極

岸陰よのそせと能く杖を杖よりて堂後よ二本

阿と金氏を以てしとて一本を以て木乃理

九言よとありて月を臨みて空乃一本風雅の

す一を以ててそを求杖論一書十を以てぬ此

集より例乃ありてつもと和松考ハ風姿形

勝京華に似てありてわ雲栖光を以て

一と仙跡乃ありて一甲を以て能く

閑を以て所ありてそ十解を以てそありて

わくしる子のありて此は一のむやくの

なり又小砂川を以てこの海を以て奇石怪岩目を

高野の山頂より山をり女鹿二里程新入歩  
やういふとに龍潭の工を建てる堂海をむ  
のふ味は慈覚大師の影堂に息を中たふ  
茶をとりてし御浦をゆめあつふ山むふ  
に足田破のあしく七甲りし申の時こわに  
坂田の倉と助亭のやうれ

あけは日陰を下りて神の浦をさる風致  
絶然たもあまの立田姫はよも及まら

高野海に絲や裁ぬお袖乃こ  
お島ぬやんまのへせを袖を浦 小

あをまき新堀狩川をゆるむおつて羽黒乃  
手白呂加亭といふもや道者新き中  
待る茶梨水もきわ呂の南谷よりくま  
の古をたぬ人きねこはやうの関をわ女乃系  
諸はこれきまを往來とす

下取茶のわも鬼乃峰のな 小  
あつたを七月七日南校をわてあまゆ  
権現をわつらうまい

かけこいよんよ散乃羽くう山  
眉半は是をわくお上羽是 小

南谷 暮山嶺山紫雲寺 道者部屋數十軒

江<sup>(三)</sup>之<sup>(二)</sup>河<sup>(一)</sup> 新<sup>(三)</sup>局<sup>(二)</sup> 分<sup>(一)</sup>明<sup>(二)</sup>之<sup>(三)</sup>嶺<sup>(四)</sup>の嶺

後川<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>

糸口<sup>(三)</sup>乃<sup>(二)</sup>と<sup>(一)</sup>けて<sup>(三)</sup>形<sup>(二)</sup>や<sup>(一)</sup>流<sup>(三)</sup>新<sup>(二)</sup>者<sup>(一)</sup>

と<sup>(三)</sup>要<sup>(二)</sup>千<sup>(一)</sup>風<sup>(三)</sup>や<sup>(二)</sup>ま<sup>(一)</sup>めて<sup>(三)</sup>お<sup>(二)</sup>け<sup>(一)</sup>る<sup>(三)</sup>川<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

荒澤<sup>(三)</sup>經<sup>(二)</sup>堂<sup>(一)</sup>院<sup>(三)</sup>主<sup>(二)</sup>東<sup>(一)</sup>水<sup>(三)</sup>子<sup>(二)</sup>と<sup>(一)</sup>ら<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>と<sup>(三)</sup>ら<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

ゆ<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>と<sup>(三)</sup>ら<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

竜<sup>(三)</sup>灯<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>何<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>一<sup>(三)</sup>種<sup>(二)</sup>早<sup>(一)</sup>む<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水

手<sup>(三)</sup>湯<sup>(二)</sup>桶<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>腰<sup>(二)</sup>や<sup>(一)</sup>よ<sup>(三)</sup>く<sup>(二)</sup>ふ<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>河<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

女人<sup>(三)</sup>禁<sup>(二)</sup>制<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>れ<sup>(二)</sup>未<sup>(一)</sup>入<sup>(三)</sup>新<sup>(二)</sup>局<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>道<sup>(二)</sup>也<sup>(一)</sup>

未<sup>(三)</sup>入<sup>(二)</sup>峰<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>細<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>也<sup>(三)</sup>と<sup>(二)</sup>ら<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>水<sup>(二)</sup>乃<sup>(一)</sup>新<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水

山<sup>(三)</sup>極<sup>(二)</sup>院<sup>(一)</sup>青<sup>(三)</sup>溜<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水<sup>(三)</sup>乃<sup>(二)</sup>新<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>水

秋<sup>(三)</sup>山<sup>(二)</sup>や<sup>(一)</sup>手<sup>(三)</sup>に<sup>(二)</sup>入<sup>(一)</sup>志<sup>(三)</sup>不<sup>(二)</sup>乃<sup>(一)</sup>指<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水

十五日<sup>(三)</sup>天<sup>(二)</sup>清<sup>(一)</sup>東<sup>(三)</sup>水<sup>(二)</sup>乃<sup>(一)</sup>新<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>乃<sup>(三)</sup>新<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

この山<sup>(三)</sup>諸<sup>(二)</sup>山<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>甲<sup>(二)</sup>山<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>谷<sup>(二)</sup>草<sup>(一)</sup>樹<sup>(三)</sup>凡<sup>(二)</sup>なる<sup>(一)</sup>地<sup>(三)</sup>也<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

昔<sup>(三)</sup>洛<sup>(二)</sup>日<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>来<sup>(二)</sup>迎<sup>(一)</sup>を<sup>(三)</sup>お<sup>(二)</sup>け<sup>(一)</sup>た<sup>(三)</sup>新<sup>(二)</sup>局<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>水<sup>(二)</sup>乃<sup>(一)</sup>新<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水

心<sup>(三)</sup>す<sup>(二)</sup>く<sup>(一)</sup>る<sup>(三)</sup>山<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水<sup>(三)</sup>乃<sup>(二)</sup>新<sup>(一)</sup>の<sup>(三)</sup>水

あり<sup>(三)</sup>て<sup>(二)</sup>肌<sup>(一)</sup>粟<sup>(三)</sup>を<sup>(二)</sup>こ<sup>(一)</sup>れ<sup>(三)</sup>ぬ<sup>(二)</sup>新<sup>(一)</sup>局<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>乃<sup>(三)</sup>新<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

ま<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>乃<sup>(三)</sup>新<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

月<sup>(三)</sup>を<sup>(二)</sup>新<sup>(一)</sup>局<sup>(三)</sup>の<sup>(二)</sup>水<sup>(一)</sup>乃<sup>(三)</sup>新<sup>(二)</sup>の<sup>(一)</sup>水

念佛より出ろくく〜 也子月 小

十六日陽殿に参り日ほ〜のち柳

合堂に人の朝日おれり

滑川の裏や砂乃きり〜 小

こ乃山のありさま人にし〜ある衣

寺〜由舊跡三山雅集より出〜

志津下り〜砂小流を流る木道寺を〜ハ

湫村裏を〜所

篋くむやきると出燈の軒あり

山形より上乃山を〜 湯に系れり

下戸沢 <sup>田</sup>村木名所並動小坂を〜又素折〜出

馬耳亭より二日草斗を〜郡山より守山へ出

御坂より中寺綿田合戸を〜岩城平

以つく沾梅〜案内〜の〜道、の〜

長屋わ〜は〜

雨路沾公を〜佳寺あり八月二日より近江

持名所〜見は〜あり沾前沾毒〜徒多

十人馬か〜は〜の〜食意阿李

湯本三箱宮

〜の〜の〜 湯乃白

月をのべて川流あまこ小酔賞し 北

泉願成寺 徳尼開基 秀衡妹也

野乃伝志ろー白糸畧録記 小

秋傳ーまあこの節を水の骨

野田玉川

求めもむ野田村あつと釣道具

あ良乃男つとるや水乃月 北

玉川下流河ほそあか北面 沾有

多葉<sup>（花）</sup>も座あつとむや野田の節 沾梅

勿来開よ〜

はる春乃名をそあうくる海の音 荷

園子株葉野のゆー是乃裏 梅

九面や磁志入羽の尾こー吹 北

花も多その節さへはなとあ宗因なり

園子謎折あつとあまふ 小名

小名の屋あまふ

海の小名をそい〜 弱網

推のうまお枝序あまふ小名の風 北

八月十五日に八幡宮祭祀換あまふのまに詠稿  
馬あまふ清亭あまふのまに詠稿あまふのまに詠稿

くぞのふとくしつ曲り松山茶屋の二奥法とくめん  
みく世馬の鞍つらつたゆ又日川玉関山  
乃紀音懐かぬ神かすくよわ中川お道逢  
しきく久下田命睡のこよ四と日あそひ松城  
へ又くらある六十日余松懐井量程あつわ是の  
めそきとこの世の運のつら合せくまのこやあめ  
はきとくお起つゆくく乃道と坂をこゆるはあし  
二津高嶺

あわのくしつ判のくあし大津審

あつらふ際少くもくつをわらち月江戸

かろぬわ情凍泉たの峯子のあつとくま  
九月十三日江戸あつ

伏箱のぬく康子月夜を念のあ

奥のゆわたあふもさきんくもくあふ顔  
を又あまらしき金さくさくの傍迹わ  
まはあつたよんかよの事をもそおぼ  
たらしきはみくあつた<sup>(志)</sup>ゆま

餞別 句々到来次第

秋

思も暇に懐きよし、ころろ人 巴人

秋乃ニ思をなむく

をくをー松出る河原ほくま次 貞佐  
江に立た強きあふろー山お木 和推  
あのみをも風やち申乃毛とゆ松 千江  
江を玉輝ふあそわく妻及白田 蓮之  
悉は思く扱り待るく柚子の夢 睡足  
破子借出申の松山甚思乃花 千山

中今良むんまよんをさるく 松のれ 敬平

昔こくわ友をむく 揚くろも 立志

芭蕉公翁不破の園に松堂一と一東博のん丸  
々祇堂むやくの園子て何をかするそち  
詞志をきつらうせよ

陸田右新妻のまねるる祇堂のふ 甄海

新ふもや安ん危の松と友新月 南取

三竹よう揚る人や松を典二五く約 秋色

旅よの松よけええとよふあまは儀ありと  
及ハん時新のあり便之送之

長橋法師押入あきまきくもくまは 我光

あきまきも如後色々くよまきみ船 千泉

御布乃幟千の事の伊達也も 豊亭  
近道お極は結うらそ友柳 雲色  
茶て脱お松のらうら風ををる 雁山  
屋のくも雲居豆磨を交は月 心夕  
お花の袖はわらひの千の鞭 貫十  
葉内者ハ扇千を免小短策 亀十  
極そそ盤手<sup>ち</sup>も帯も成其果堂殿 花千  
あまこ下<sup>あ</sup>あ<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>の<sup>り</sup> 居士もあ  
わつりり  
澄澄指 尾はきてぬれさ餓えし 湖十  
関はさつしまあやめそ花のく 園女

物とれを見し御船の月も又 白雲  
后山より良くとし 志士もあまむく草に  
一向を極く知人のもとをさす

空輕くおぬあつし 射子お門 站洲  
別 祇堂

松山も八味をささげあを糸のる 站徳  
なまかおそくをさすのり  
粉とくとくあそふ

無花果  
いちくの例お出さやう又お 郁文  
居士の幸位を極くさすのり  
松山もこの構おはうらまき

立もまお新あおなれそを并 青我  
おれおきれ白川を極あはせ 鳳子



様さのふを乃く權めを祐のふ只尺  
ふけさんよ教ををみる友ふ 文露  
七つくま出く白川やほくふのよ 蘭砂

濠洲少子使ひまふ

海一々に二人西けし甲まはくの 東也

ふ此を悉くやまの山ひの木笠 李卿

お建しんはくろけしまの朝をそふ

友乃中をほしめりし一月の山 浮生

遊る梅くやまのつたふとや

ま城ゆまの修を遊るこの数年 栢十

草鞋乃阿のくろくそやまの月 満汝

親のなむ子にあり様の、ふらふの、氷安  
卯先九や日光を恒はくまき 石里  
朝ゆきを茶をいれおむの茶水が 序令

旅中所々餞別

紅如出羽結城のうきまははみくはるる乳音我

花より火燄や旅乃みく此れ兼我尚

井の子や道乃ちからも一夜まり下籠序吟

前つるる卯若弾け旅くころも廉治嵐沙

昔よりあはしあまをる合此れ車一五株

何人そとくまを樹の安川さのる百詩

おんま、くもまき川風此れ助鳥山斟斗

そとまき、計は旅をせ、まつら、里杜

先も待たえよまき、乃摺や、み、翠戸

月原、山ま事、はしめ帯の上り旅、流木

洗濯乃、くかり、くまわりの楓、如弓

凌霄此れ夢、は合此れ、まき、このま、奥尺

田橋之、見送る、まき、江戸、兼る、拾意仙臺

庭、ひのまき、梅、風を、まき、まき、の、か、骨徳

也、園と、涼く、訓、か、り、一、甲、塚、午、雞

そ、ら、の、筆、まき、まき、まき、まき、まき、蒲帆

重、の、まき、まき、まき、まき、まき、まき、竹影

涼、さ、乃、言、傳、まき、まき、まき、まき、まき、指杏

三洋水相達他郡岩

羽列秋田

其栗 秋葉  
 吐葉 水紫  
 薪可 訓紅  
 社櫓 秋葉  
 主枝子や風又倍きむおこの花

是此も問さぬる乃——み川うな、首紅  
 ハ徳やほハぬ耳此能ほ〜匹一帆  
 草麻や男慮のほは女慮と付、丸々  
 是あををむや砂子乃金鬼子、友紫  
 さき有子羽少のきぬあつさ系、落角  
 旅よの樹陰の穉子くら衣、寛

懐旅情

夕顔に縁千といわや旅、厠 丹福  
 摺鉢に旅乃七ツや旅、線花、谷羊  
 旅故を何系の院に指集、木奴

秋近きる大島にけよ旅徒手替 兔尺  
 昼息乃の註りしれ、報謝杖、柳郎  
 昔のや新出の壽ををぬ海、其十  
 昔筈やをるハ隔くよ大島のを、風例  
 河骨や、くよ甚重もの、旅者、柯亭  
 拵拵如如世の無業を立交の凡、流水  
 了の下り、孫夕、旅の終り、了る今、三志  
 ちよ多よ、貝、笠、音の終り、了る今、湖印

葉佳席

ちよの多よ、孫夕、旅の終り、了る今、湖印  
 不孤替同

數首、利、菊、な、よ、旅、や、石、乃、肌、紫、辺  
 夕、く、ま、を、側、よ、り、孫、る、の、空、の、繩、紅、塵  
 犯、り、孫、る、の、風、を、よ、大、島、の、れ、龜、玉  
 了、る、下、り、孫、夕、旅、の、終、り、了、る、今、湖、印  
 名、取、深、乃、波、や、裏、連、お、ほ、い、と、れ、其、外  
 ね、そ、ぬ、の、ま、い、や、う、ま、め、き、電、の、ま、吟、洞  
 電、乃、臨、り、よ、あ、あ、の、ほ、い、と、れ、竹、紅  
 昔、乃、ま、い、を、拵、る、法、よ、う、が、葉、柳

惜別

秋はくや終るあいにこの別を、際、苔、磯

子母を照して、之を照すまみろを 菑 紫月  
あや月やんほり水分限、梅片  
ひまの紋にめぐるおとを之の影、非琴  
一やまに留れ似と送、まのら、萍尾  
ふらるる、舷とく、扇、の肌、斜笛

其六引

お崎漆

木の線いつまに結の膠、一そ、鏡凡  
雪の結、ゆき、も、虎のけ、ま、つ、る、鏡司  
け、ま、乃、若、志、心、の、る、り、友、の、海、雪、且

送別 七月二日

結、鈴、能、春、な、ぬ、も、水、つ、も、の、な、亀田 松兼  
お、ひ、ま、や、野、衣、乃、水、の、ま、と、わ、忍、也  
ま、の、あ、ま、の、妹、よ、の、ま、ら、や、ま、の、あ、れ、道、野  
又、乃、虫、の、お、孫、ま、の、送、る、や、ま、の、あ、れ、橋、中  
廿、四、年、片、舞、あ、け、さ、ま、い、川、こ、兼月  
清、也、と、蹄、い、こ、ゆ、此、お、孫、の、あ、侍雲  
一日二日のやまをやれ  
辛、懐、お、妹、な、わ、ま、ま、さ、す、ゆ、め、を、又、方石  
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、の、端、を、萩茅  
つ、る、お、孫、な、な、を、あ、つ、空木

百遠くまるとなる事

城念を百甲の心事や二日月 亀田 曉来

方袂

任羅のんる月やわ物をうらね 羽黒 東水

ともは此の都やあらしは枝 閑居 了枝

あ日以下虎をうらねる 呂船

一向なきくみ 南栖

月雲乃林鹿より 竹童

道心此のいつれおす 水亭

留柳此の 芦江

六四と見よ 山

城念よ 青渭

青岫 青岫

蛙 青岫

久 改日

流 葉折

婿 馬耳

神 東舟

丑 不城

お 湖柳

衣吹

身は石のまつゝのあつちのゆるいよ  
又もさるる仲秋ありて

岩城

園は枯樹さひまゝに、  
露沾  
葉は川にや黒く好むゆのうまや、  
法荷  
くちを影をみれば、  
芳津  
枝節よくまゝに、  
昨非  
昔も麦粟は、  
右巴  
七月や、  
沾梅  
そよよと、  
法薄  
や、  
標色

街道ハ冬はさう秋ハ春  
平方  
潮口

別情

冬下  
舟  
通昭、  
席睡  
神口乃、  
更幽  
葉栗や、  
雨竹  
影をまゝに、  
彫雪  
長守を、  
境  
介峰  
尺さるる、  
凍泉  
鞍味乃、  
猿栗

おまをそこのわらわはらるのよは子  
らんあ平よりういそふよ入あわ  
くろくおまはてりてりよこころ

古は子そこのけこんよ我し

潭北  
母

孫橋乃方原解若我孫て速疾ふ  
以てたふ<sup>ゆき</sup>あふ<sup>ゆき</sup>神海や一行あふ  
密乗まふか孫おとそを記  
孫今<sup>先</sup>先を記ふとわ<sup>は</sup>地<sup>は</sup>あはれ  
吉原を撰<sup>歩</sup>てそ地<sup>は</sup>の神<sup>は</sup>あはれ  
一歩<sup>歩</sup>らつは<sup>は</sup>あふ<sup>は</sup>其<sup>は</sup>あはれ<sup>は</sup>至<sup>は</sup>るを  
入<sup>は</sup>の神<sup>は</sup>あはれ<sup>は</sup>あふ<sup>は</sup>友<sup>は</sup>青<sup>は</sup>遠<sup>は</sup>洞<sup>は</sup>  
祇<sup>は</sup>の<sup>は</sup>一<sup>は</sup>原<sup>は</sup>の<sup>は</sup>あふ<sup>は</sup>あはれ



鳥心かほゆと響ふまゝ行末は  
一かゝまにし。奥羽法寺は雑草と  
そらぬまあり。果敢る。またゆめ  
めまのちぢた女。筆談無。皆句むぢ  
は法を事ら。のむき。縣とりのゆえ。  
ハト長禁軍。教路。は棒つ。のん  
鏡法。の心。尚ら。つ。人の。ま。と。又。法  
かひ。詩。方。を。難。と。階。句。は。あ。る

下有。地。乃。江。都。乃。地。安。待。り。ゆ。ゆ  
久。一。祇。尊。を。む。む。た。を。春。留。み。耳。汝。撫。て  
み。ら。ひ。き。悟。一。先。各。自。法。機。持。以  
出。さ。し。世。海。を。お。さ。る。は。る。芭。蕉。の  
夢。を。詠。復。乃。切。株。と。ち。く。ひ。と。中  
あ。ん。や。は。く。氷。室。法。櫻。と。文。律。法  
毒。と。又。毒。し。菊。乃。法。の。り。ゆ。ゆ  
府。と。地。乃。あ。る。ま。の。性。と。あ。る。也。也

物中より所く其終功何ん哉  
其か一言享保とる其終と  
其何ん程度其白雲波

